

日本グループ・ダイナミクス学会の会報／第11号

1997年9月1日

(第11号)

発行所／奈良市山陵町1500 奈良大学社会学部（矢守研究室）

発行人／杉万俊夫

編集担当（代理）／杉万俊夫

ホームページ <http://www.nacos.com/JGDA/>

正直に言って、大きなリスクテイキングでした---一体、海外から何人来てくれるのか？英語での発表で、日本人の発表が激減するのでは？

杞憂でした。国外、国内から、それぞれ100を超える発表。そして、言葉の困難を吹き飛ばすかのような、白熱した討論。アジア発社会心理学の芽は、着実に育まれつつあるようです。（俊）

主な目次

- [1. 大成功！第45回大会（8月4～6日）、アジア社会心理学会との共催](#)
- [2. 「Asian Journal of Social Psychology」創刊号---ついに出版した](#)
- [3. 優秀論文賞---渡部 幹・寺井 滋・林 直保子・山岸俊男論文（一般部門） 永田素彦・矢守克也論文と田村美恵論文（若手部門）](#)
- [4. 来年度大会は、名古屋大学（大会委員長 長田雅喜）](#)
- [5. 今年度総会の報告](#)
- [6. 京都大会プロシーディングズ 論文募集中](#)

1. 大成功！第45回大会（8月4～6日）、アジア社会心理学会との共催

本学会の第45回年次大会は、8月4～6日の3日間、国立京都国際会館において開催されました。本大会の特徴は、2年前に誕生したアジア社会心理学会の第2回大会とのジョイント・ミーティングだったことです。幸い、17カ国に及ぶ多数の国々から100名を超える参加を得ることができました。また、本学会員を中心に、国内からも200名以上のご参加をいただきました。日本人のみならず、アジア諸国からの参加者にとっても、外国語（英語）での発表でしたが、4つの口頭発表会場、そして、ポスターセッションで、熱心な討論が繰り広げられました。

参加者数と発表件数の概要は、以下のとおりです。

参加者数 306名 (国内202名、海外104名) 発表件数297件
国別参加者数：オーストラリア10, オーストリア1, バングラデシュ2, 中国6, 香港10,
インド3, 韓国15, マレーシア9, オランダ1, ニュージーランド1, フィリピン4, シンガ
ポール7, 台湾13, トルコ1, 英国1, 米国19, ジンバブエ1
大会組織委員会 杉万俊夫・北山 忍(京都大学総合人間学部)

アジア社会心理学会第1回大会(1995年 香港) プロシーディングズ

Progress in Asian Social Psychology (Vol. 1) Wiley

グルダイ会員特別価格 1,800円(定価25ドル)で販売中(詳細は6頁)

2. 「Asian Journal of Social Psychology」 創刊号---ついに出版しました

この「ぐるだいいニュース」とともに、「Asian Journal of Social Psychology」の創刊号を同封します。表紙の出版年月日をご覧のとおり、この創刊号は、来年(1998年)1月刊行のものを、京都会議に間に合わせるべく、約半年繰り上げて刊行しました。Vol. 1は、3号刊行されますが、第2号は来年9月、第3号は12月に刊行予定です。1999年(Vol. 2)からは、Quarterlyとなり、3, 6, 9, 12月に刊行される予定です。

Vol. 1 No. 2以降に向けて、投稿論文の受付が始まっています。日本語で投稿して、審査にパスしてから英訳するという方法をとることもできます。また、「実験社会心理学研究」に掲載した論文を、投稿することもできます(この場合、できれば、若干の改訂を施して下さい)。投稿要領については、AJSPの裏表紙裏面をご覧ください。

3. 優秀論文賞---渡部 幹・寺井 滋・林 直保子・山岸俊男論文(一般部門) 永田素彦・矢守克也論文と田村美恵論文(若手部門)

「ぐるだいいニュース第10号」(本年6月発行)に記載しましたとおり、本年より、従来の「若手研究奨励賞」を発展解消させて、「優秀論文賞」(一般部門と若手研究者部門)を授賞することになりました。本年度の選考委員会(委員長 古畑和孝)は、8月3日14:00-16:00、国立京都国際会館104室にて開催され、委員全員による事前投票の結果をも参考にしながら、以下の論文に授賞することを決定しました。若手研究者部門については、甲乙つけがたい2本の論文を前に委員の意見が分かれたましたが、いずれも優秀な論文であることに鑑み、2つの論文に授賞することとなりました。また、授賞式は、8月5日の総会に引き続いて執り行われました。

1997年度優秀論文賞

一般部門	「互酬性の期待にもとづく1回限りの囚人のジレンマにおける協力行動」(実験社会心理学研究、第36巻第2号) 永田素彦・矢守克也
若手研究者	「災害イメージの間主観的基盤---昭和57年長崎大水害についての会話分析」(実験社会心理学研究、第36巻第2号)
部門	田村美恵 「情報処理の視点がillusory correlation (誤った関連づけ) 現象に及ぼす効果」(実験社会心理学研究、第36巻第2号)
選考委員長	古畑和孝
選考委員	安藤清志、池田謙一、亀田達也、唐沢 稯、北山 忍、村田光二、杉万俊夫、竹村和久、山本真理子、矢守克也 (ABC順)

4. 来年度大会は、名古屋大学 (大会委員長 長田雅喜)

本学会の来年度 (1998年度) 大会は、名古屋大学 (大会委員長 長田雅喜) において、**9月26日 (土) ~27日 (日)** に開催されることになりました。

5. 今年度総会の報告

本学会の今年度総会は、年次大会の2日目12:00~13:00、国立京都国際会館 (C1室) において開催されました。定足数に足りなかったため、仮総会となりました。本学会細則第11条により、以下の決議事項に対して、1ヶ月以内 (本年度については、10月15日まで) に、会員総数の過半数が文書によって反対しない場合は、総会の正式決議となります。

日本グループ・ダイナミックス学会1997年度 (仮) 総会

日時：1997年8月5日 12:00~13:00

場所：国立京都国際会館 (C1室)

出席数：72名

報告事項

(1) Asian Journal of Social Psychologyの刊行状況

本「ぐるだいニュース」の[記事2](#)を参照。

(2) 「実験社会心理学研究」の刊行状況

本年6月、第37巻第1号 (論文7編、展望2編) を刊行したこと、および、第37巻第2号は、本年12月に刊行予定であることが報告された。第37巻第2号の内容は、論文8編、および、特集「過疎地域活性化のグループ・ダイナミックス」 (論文3編) となる予定。

(3) 日本心理学諸学会間連絡会からの退会について

本学会は、1997年3月末をもって、日本心理学諸学会間連絡会を退会したことが報告された (詳細は、「ぐるだいニュース」第10号を参照)。

(4) 日本学術会議について

本年度に行われた日本学術会議会員選出の経緯について報告された。

(5) 「優秀論文賞」について

選考委員会の選考結果について報告された（本「ぐるだいニュース」の[記事3](#)を参照）。

〔参考資料〕「ぐるだいニュース」第10号より再掲 日本グループ・ダイナミックス学会 優秀論文賞

日本グループ・ダイナミックス学会は、前年度刊行の「実験社会心理学研究」掲載論文の中から、「優秀論文賞（一般部門）」と「優秀論文賞（若手研究者部門）」を授与する。優秀論文賞（一般部門）は、掲載論文のすべてを対象に選定する。優秀論文賞（若手研究者部門）は、掲載論文の内、第1著者が、論文投稿時点において、30歳以下の論文を対象に選定する。

本賞の選考は、別に定める「優秀論文賞」選考委員会によって行う。

選考手続き

(1) 選考委員による事前投票

選考委員は、前年度刊行の「実験社会心理学研究」掲載論文のすべて（展望・資料論文、特集論文を含む）を審査対象として、優秀論文賞の候補にふさわしい論文3編以内を選び、1～3位の順位をつけて投票する。事前投票の結果は、1位論文3点、2位論文2点、3位論文1点と得点化した上で、集計する。事前投票は、一般部門、若手研究者部門の、それぞれについて行う。

(2) 選考委員会（会議）

事前投票の集計結果を基に、選考委員会において、授賞論文を決定する。選考委員会は、本賞にふさわしい論文がないと判断した場合には、授賞を見送ることができる。

(3) 選考対象からの除外

上記の規定に関わらず、すでに本賞を受賞した論文の第1著者であった者を、第1著者とする論文は、選考の対象としない。ただし、過去に若手研究者部門で受賞した論文の第1著者を、第1著者とする論文を、一般部門の授賞論文とすることは妨げない。

（注）従来の「奨励賞」は、優秀論文賞（若手研究者部門）に相当するものとする。

選考委員の選出

選考委員は、

- ・「実験社会心理学研究」編集委員長
- ・理事の投票によって選出された、本学会員10名

の計11名とする。

選考委員長は、選考委員11名の互選によって選出する。

選考委員の任期は2年とし、理事の改選時に選出するものとする。

(6) 臨床心理士資格認定協会の大学院指定制について

昨年末から今年3月にかけて、3回の「心理学界協議会」が開催され、大多数の学会が、指定制の実施延期と再検討を要請したにもかかわらず、認定協会は、本年4月から指定制実施を強行するに至ったことが報告された（詳細は、「ぐるだいニュース」第10号を参照）。

〔参考資料〕本学会が認定協会に送付した要望書

1996年12月20日

財団法人 日本臨床心理士資格認定協会

会頭 木田 宏 殿

日本グループ・ダイナミックス学会

会長 杉万 俊夫

師走の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび貴協会において計画中の、臨床心理士受験資格に係る大学院指定制に関しまして、日本グループ・ダイナミックス学会としての意見を申し述べたく、本状を送付いたしました。

本学会理事会としては、「臨床心理士資格認定協会の大学院指定制」を考える会から貴協会に提出されました質問状を検討の上、同質問状の趣旨に賛同するとともに、貴協会の計画の再検討を強く要望いたします。もとより、私どもも、心理学関連の学会の一つとして、心理学関係者の職能が社会的に確立し、社会的な評価を高めることに異存はありません。しかし、現在、貴協会において計画中の大学院指定制は、いかに、貴協会関係者に益するものといえども、広く心理学全般を見渡せば、教育上、研究上の著しいアンバランスをもたらすことは必至と考えられます。そもそも、優れた臨床心理士の要請を目的とする制度が、無視しがたい多数の心理学関係者の反発の中で発足するということ自体、不幸なことと言わざるを得ません。どうぞ、貴協会の計画実施を一時凍結し、広範な心理学関係者との対話の中で、計画を再検討されますことを、重ねて強く要望します。

(7) 本学会の資格認定（の可能性）に関する検討について

臨床心理士資格認定協会の大学院指定制強行実施に伴い、いくつかの学会が独自の資格制度をつくらうとする動きがある。本学会でも、独自の資格制度をつくる可能性（つくらないという可能性をも含めて）に関する検討を開始していることが報告された。

(8) 会長選挙における会長指名常任理事の被選挙人資格について

会長指名常任理事も、他の常任理事と同様、会長選挙における被選挙人資格を有することが確認された。

審議事項

(1) 1996年度決算・会計監査報告

1996年度の決算報告、ならびに、会計監査報告が行われ、承認された。

(2) 1998年度予算案

1998年度予算案について説明が行われ、承認された。

また、会長より、本学会の財政状態について、次のような説明がなされた：

・本学会の財政状態は、仮にAJSPを刊行しないとしても、非常に逼迫している。さらに、昨年度総会における承認事項に基づき、96～98年度は、積立金を取りくずすことによって、収入不足を補うが、来年度をもって、本学会の貯金（積立金）はゼロになってしまう。

・本学会がAJSPのvolume 1（3 issues）に対して支出する金額は160万円（97、98年度に80万円ずつ支出）であるが、グルダイ会員（およびAASP会員）向け価格（US\$30）に会員数800をかけると240万円以上になる。その差額は、AASPの中心メンバーが獲得した助成金によって賄われている。したがって、早急に、本学会の自活体制をつくる必要がある。

・以上の理由から、来年度総会においては、大幅な会費値上げを諮らざるを得ない。

(3) 1996年度大会決算報告

1996年度大会委員長（黒川正流）から決算報告が行われ、承認された。

(4) 1998年度大会について

1998年度大会は、9月26-27日、名古屋大学（大会委員長 長田雅喜）で開催されることとなった。

総会に先立ち、8月3日に、常任理事会、および、理事会が開催されました。常任理事会、理

事会における報告事項、審議事項は、新入会員（別掲）の承認を除き、上記総会の報告事項、審議事項と同じです。

常任理事会（常任編集委員会）

日時：1997年8月3日 12:00～13:30

場所：国立京都国際会館（104室）

出席者：（会長）杉万俊夫（常任理事）黒川正流、外山みどり、山口 勸、山本真理子、矢守克也（ABC順）

理事会（編集委員会）

日時：1997年8月3日 16:00～18:00

場所：国立京都国際会館（104室）

出席者：（会長）杉万俊夫（理事）安藤清志、渥美公秀、亀田達也、黒川正流、長田雅喜、竹村和久、外山みどり、山口 勸、山本真理子、矢守克也、吉田俊和（ABC順）

日本グループ・ダイナミクス学会1996年度決算報告書

収 入	予 算	決 算	支 出	予 算
会費	5,550,000	5,478,050	機関誌印刷経費	3,690,000
一般会員年度会費	4,050,000	4,023,050	機関誌印刷費	2,700,000
一般会員(学生)年度会費	260,000	202,800	機関誌送料	90,000
入会金	40,000	51,000	編集業務通信費	600,000
雑誌定期購読費	1,200,000	1,201,200	抜刷代	300,000
分冊売上	300,000	26,875	ニュースレター	330,000
文部省科研費補助金	300,000	300,000	印刷費	150,000
広告収入	150,000	125,000	送料	180,000
雑収入	310,000	7	学会賞関係	100,000
利息	10,000	7	地域別合評会	50,000
抜刷代	300,000	0	諸学会連絡費	100,000
名簿作成・理事選挙準備積立金繰越入	600,000	600,000	大会助成金	200,000
積立金繰越入	410,000	410,800	事務費	1,775,000
基本積立金	120,000	120,800	事務委託費	1,155,000
特別出版積立金	290,000	290,000	人件費	480,000
小 計	7,620,000	6,940,732	通信・交通費	120,000
			事務雑費	20,000
			理事会費	500,000
			ホームページ新設・管理費	100,000
			名簿作成・理事選挙費用	1,250,000
			会員名簿作成費	1,050,000
			理事選挙費	200,000
			雑費	50,000
			予備費	20,000
			小 計	8,165,000
前金繰越金	605,521	605,521	次期繰越金	60,521
合 計	8,225,521	7,546,253	合 計	8,225,521

特別会計

特別出版基金	774,232 (内、1996年度利息収入 37,900円)
三隅賞基金	1,223,724 (内、1996年度利息収入 7,075円)
名簿作成・理事選挙準備積立金	431 (内、1996年度利息収入 431円)

アジア社会心理学会第1回大会（1995年 香港）プロシーディングズ

Progress in Asian Social Psychology (Vol. 1) Wiley

グルダイ会員特別価格 1,800円（定価25ドル）で販売中

購入方法 郵便局備え付けの振込用紙で、代金をお送り下さい。

口座番号 01050-8-82702

口座名称 人間情報論分野

日本グループ・ダイナミクス学会1997年度予算 (昨年度総会で承認済)			
収 入		支 出	
会費	5,870,000	機関誌印刷経費	3,29
一般会費 (@6,000×730)	4,380,000	和文誌印刷費	2,000,000
学生会費 (@4,000×60)	240,000	英文誌刊行費	800,000
入会金 (@1,000×50)	50,000	送料 (@60×2×800	
雑誌定期購読費	1,210,000	+ @120×1×800	192,000
		編集業務通信費	300,000
分冊売上	200,000		
文部省科研費補助金	350,000	ニュースレター	31
広告収入	150,000	印刷費 (@40,000×3)	120,000
雑収入(利息など)	10,000	送料 (@80×3×800)	192,000
特別出版基金から繰入	400,000	研究奨励賞 賞金	10
		名誉会員推戴関係費	3
		地域別合評会補助金	5
		諸学会連絡会議関係費	8
		大会助成金	20
		ホームページ管理費	10
		事務費	1,87
		学会センター業務事務委託費	1,184,000
		機関誌発送 (@260×800)	208,000
		NL発送 (@200×800)	160,000
		会員管理費	80,000
		会員徴収費 (@420×800)	336,000
		会員異動処理費	80,000
		会計業務委託費	240,000
		発送ラベル出力費	20,000
		その他手数料	60,000
		通信・交通費(センター)	120,000
		事務雑費(センター)	20,000
		人件費(奈良大学事務補助員)	550,000
		理事会費	30
		雑費	3
		予備費	1
		名簿作成・役員選挙積立金	60
合 計	6,980,000	合 計	6,98

(注) 支出欄の(センター)は、学会事務センターにおける支出を示す。

投稿論文募集中

京都大会プロシーディングズ

Progress in Asian Social Psychology (Vol. 2)

Editors: Toshio Sugiman, James Liu, Minoru Karasawa,
Colleen Ward and Uichol Kim

審査を経て、約20論文で編集予定

投稿締切 1997年11月30日

投稿先 〒606-01(住所不要)京都大学総合人間学部 杉万俊夫

投稿要領 ホームページ <http://www.nacos.com/JGDA/>

e-mail sugiman@hi.h.kyoto-u.ac.jp

Fax 075-753-6559

日本グループ・ダイナミクス学会1998年度予算(案)

収 入			支 出	
会 費		5,730,000	実験社会心理学研究	
一般会費(⑥6,000×700)	4,200,000		印刷費	2,300,00
学生会費(④4,000×70)	280,000		送料(⑥60×2×800)	96,00
入会金(①1,000×50)	50,000		編集業務通信費(奈良大)	300,00
雑誌定期購読	1,200,000		AJSP	
雑誌超過頁個人負担分		300,000	購入費	800,00
分冊売上		50,000	送料(⑥60×2×800)	96,00
文部省科学研究費補助金		330,000	編集業務通信費(奈良大)	50,00
広告収入		150,000	ニュースレター	
雑収入(利息など)		10,000	印刷費(④40,000×3)	120,00
名簿作成・選挙基金から繰入		600,000	送料(⑧80×3×800)	192,00
特別出版基金から繰入		400,000	優秀論文賞賞金	
			名誉会員推戴関係費	
			地域別合評会補助金	
			大会助成金	
			ホームページ管理費	
			事務費	
			事務委託費(セ)	1,110,00
			通信・交通費(セ)	120,00
			事務雑費(セ)	15,00
			人件費(奈良大)	450,00
			理事会費	
			名簿作成・理事選挙費用	
			名簿作成費(セ)	1,050,00
			理事選挙費(奈良大)	100,00
			雑費	
			予備費	
合 計		7,570,000	合 計	

(注) 支出欄の(奈良大)は、事務局における支出、(セ)は、学会事務センターにおける支出を示す。